

令和7年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県南会場

科目 ①障害児の支援 発達障害のある子どもの理解と対応

- ◆ 障害という状況が時に周囲の理解不足（周囲の反応という環境の違い）によってあらわれる側面もあるという視点を共有することが大切だと感じた。本人も周囲も快適に、自分らしく過ごせるような支援につなげるために、本人の置かれている状況を様々な角度からとらえ、適切な方法を探っていけるよう努めたい。また、本人の能力だけでとらえず助けとなるような周囲との関係を築けているかも重要だと分かった。
- ◆ 発達障害はASD、ADHD、LD等あり、それぞれの特徴について学び、障害のある子どもは定型発達児と異なり、相手の気持ちを読むプロセスが違うこと、人間は自己充実欲求、繁合希求性の二つのバランスをとり生きていることについて理解した。支援員として子どもと保護者の心の揺れに寄り添い、気持ちの共有や折り合いに留意して一緒に解決策を考えながら進むべき方向性等、子どもと保護者の身近な存在として見守っていききたい。
- ◆ 発達障害のある子どもへの支援のあり方、寄り添いを学ぶことができた。自閉スペクトラム症の行動特徴についても理解を深めながら個々のニーズに合わせた関わり方を大切にしていきたい。指示を簡潔に伝えたり、成功体験を積み重ねたりしながら、その子に合った支援ができるよう心がけたい。また、子どもと一緒に自らが楽しめるよう過ごしやすい環境づくりや、見通しがもてる支援を行っていききたい。
- ◆ 発達障害のある子どもは、こだわりが強いことが多くそれがトラブルの引き金になってしまうこともあるが、精神的安定、ストレスの対処行動であるのも事実であり、「こだわり」を認め保証してあげる環境を作ることは子どもの支援を考える上で大切だと理解した。障害特性を知り、手がかりを得、気持ちを想像し、心の揺れに寄り添い、一緒に気持ちに折り合いをつけた「見通しの支援」を、一人ひとりにしっかりと向き合っていきたい。
- ◆ 発達障害のある子どものとらえ方や考え方の特徴を分かりやすく話していただきよく理解できた。自分の学童の子どもたちを思い浮かべながら、驚いたり納得したりしながら勉強できた。子どもへの見方を変えれば支援のあり方も変えられると感じたし、それが子どもの心地良い居場所になると思った。まわりの子どもたちの言動は、その子どもたちのまわりの大人環境にあり、我が子が発達障害である保護者も子どもと共に歩んでいることに強く心が動いた。